

グループ研究テーマ

「なぜこの支援か？」から見える主体性 ～自立活動の視点で授業を再構築する～

テーマ設定について

- ◆ 主体性の評価の難しさ
→ 主体性を共通の言葉で捉える。
- ◆ なぜこの支援なのか？の根拠
→ 自立活動の視点を取り入れる。

今年度の研究経過(4～11月)

- 4月: テーマの共有
- 5月: 主体性×自立活動の関係に触れる
- 6月: エピソードからキーワード抽出
- 7月: 手立てを自立活動で分類
- 9月: 主体性ネーミング化ワーク
- 10月: 条件整理のスライドで構造化
- 11月: まとめ

資料・自立活動の6区分

自立活動の6区分27項目

1 健康の保持	(1)生活のリズムや生活習慣の形成に関する事。 (2)病気の状態の理解と生活管理に関する事。 (3)身体各部の状態の理解と養護に関する事。	(4)障害の特性の理解と生活環境の調整に関する事。 (5)健康状態の維持・改善に関する事。
2 心理的な安定	(1)情緒の安定に関する事。 (2)状況の理解と変化への対応に関する事。	(3)障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関する事。
3 人間関係の形成	(1)他者とのかかわりの基礎に関する事。 (2)他者の意図や感情の理解に関する事。	(3)自己の理解と行動の調整に関する事。 (4)集団への参加の基礎に関する事。
4 環境の把握	(1)保有する感覚の活用に関する事。 (2)感覚や認知の特性についての理解と対応に関する事。 (3)感覚の補助及び代行手段の活用に関する事。	(4)感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関する事。 (5)認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関する事。
5 身体の動き	(1)姿勢と運動・動作の基本的技能に関する事。 (2)姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関する事。 (3)日常生活に必要な基本動作に関する事。	(4)身体の移動能力に関する事。 (5)作業に必要な動作と円滑な遂行に関する事。
6 コミュニケーション	(1)コミュニケーションの基礎的能力に関する事。 (2)言語の受容と表出に関する事。 (3)言語の形成と活用に関する事。	(4)コミュニケーション手段の選択と活用に関する事。 (5)状況に応じたコミュニケーションに関する事。

仮説①

主体性の評価の難しさ

→主体性を共通の言葉で捉える。

授業動画の検証

- 1 児童・生徒の**主体的行動**を洗い出す。
- 2 主体的行動をカテゴライズし、**共通の言葉**で括る。
例)選択肢を与えられた際、自らの意志で選び取る。
＝「選択」

主体性を共通の言葉で評価
→評価の明瞭度が高まる

個々の実態に合わせた支援

仮説②

なぜこの支援なのか？の根拠

→自立活動の視点を取り入れる。

授業動画の検証

- 1 児童・生徒の**主体的行動**を洗い出す。
- 2 主体的行動を表出させた背景にある
支援の工夫を抽出。
- 3 『自立活動の6区分27項目』に当てはめる。

なぜこの支援か？

『自立活動の6区分27項目』の有効性を再認識
→授業での意識的活用

授業の土台作り

実践

中学部1年生 国語・数学(個別学習)

★授業で見られた主体的な行動★

課題が終わったら、自分から教師に報告をする。

★行動の具体的エピソード★

机上に貼ってある報告カードを手掛かりに、自ら課題完了の報告を行うことができる。

★関連する自立活動の区分及び項目★

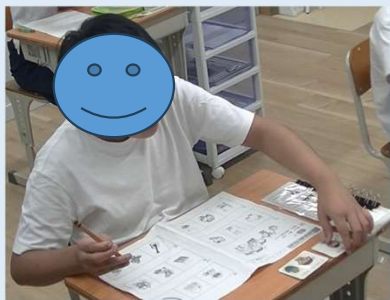
主区分「6 コミュニケーション」

(5) 状況に応じたコミュニケーションに関すること

副区分「4 環境の把握」(報告カードが手掛かり)

(5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること

→「行動の意味は複層的であり、状況理解と表出が絡んでいる」



中学部1年生 国語・数学(個別学習)

★授業で見られた主体的な行動★

列に並んで採点を受ける。

★行動の具体的エピソード★

ケンステップを手掛かりに、列に並んで採点を待つことができる。

★関連する自立活動の区分及び項目★

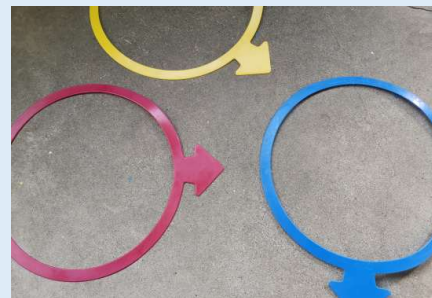
主区分「5 身体の動き」

(5) 作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること

副区分「4 環境の把握」

(5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること(ケンステップが手掛かり)

→「行動の意味は複層的であり、見通しをもてることと並んで待つことが絡んでいる」



実践から見た“主体性を支える条件”

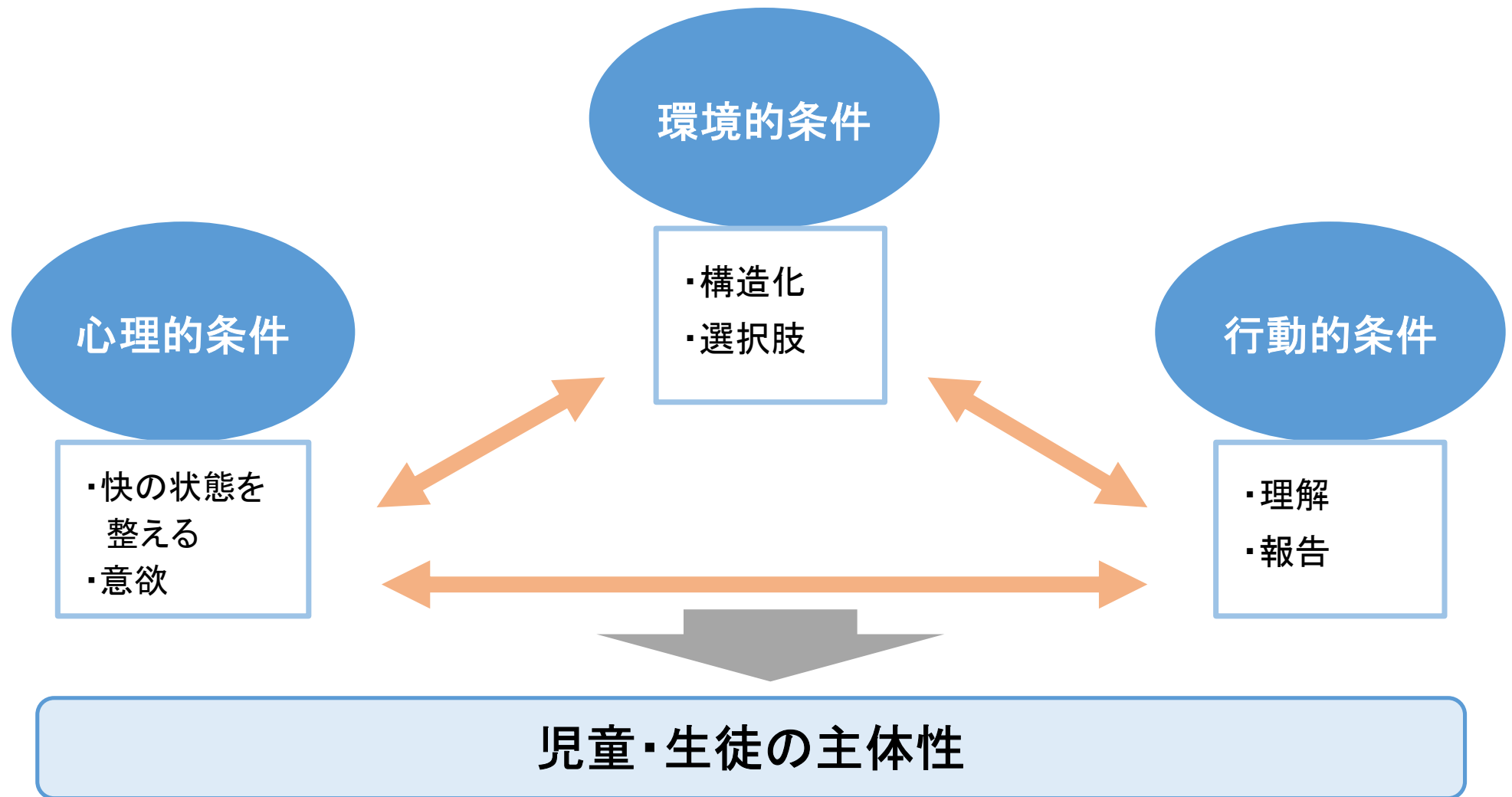


表1・主体的行動(キーワード)と自立活動の区分

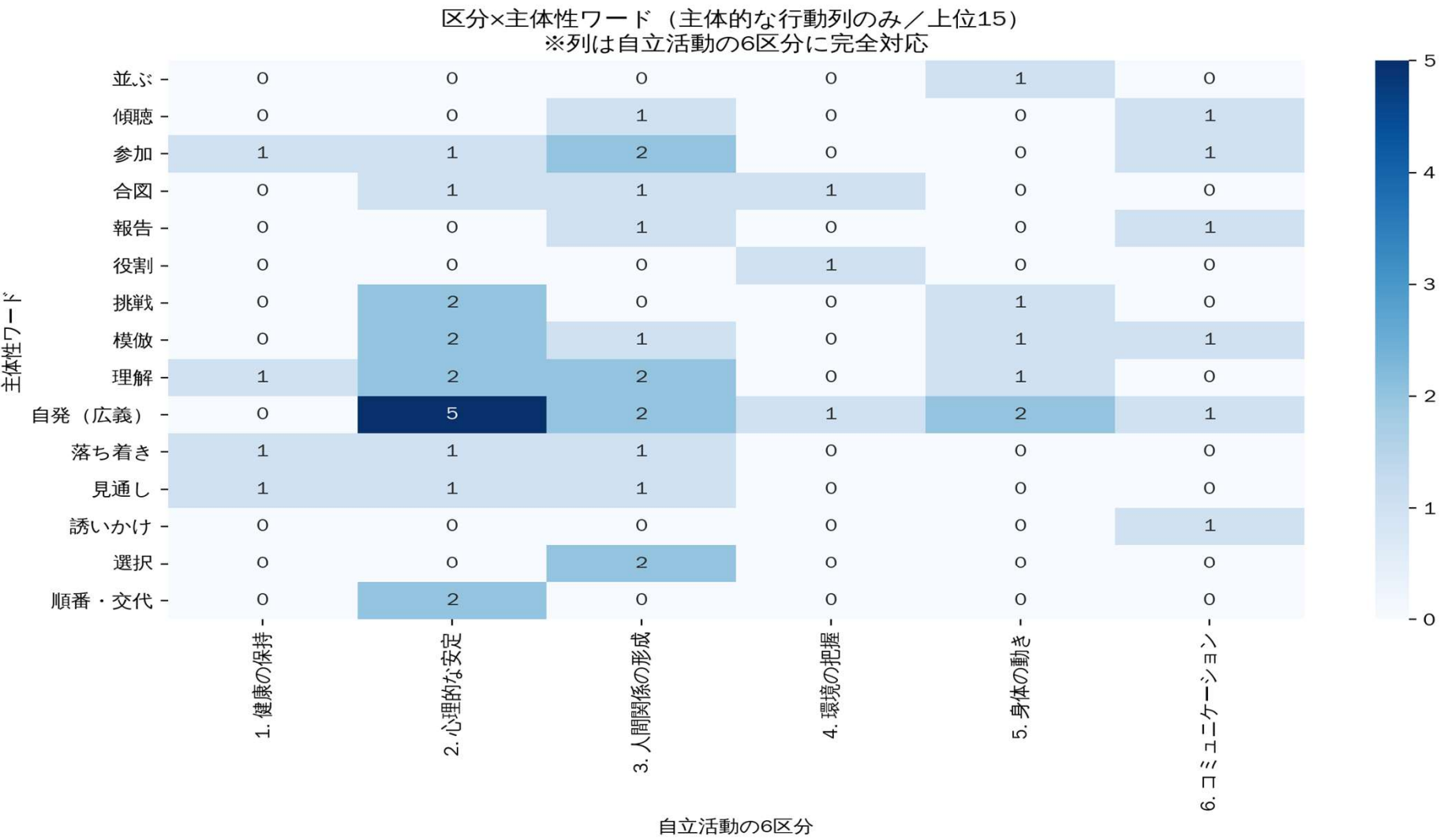
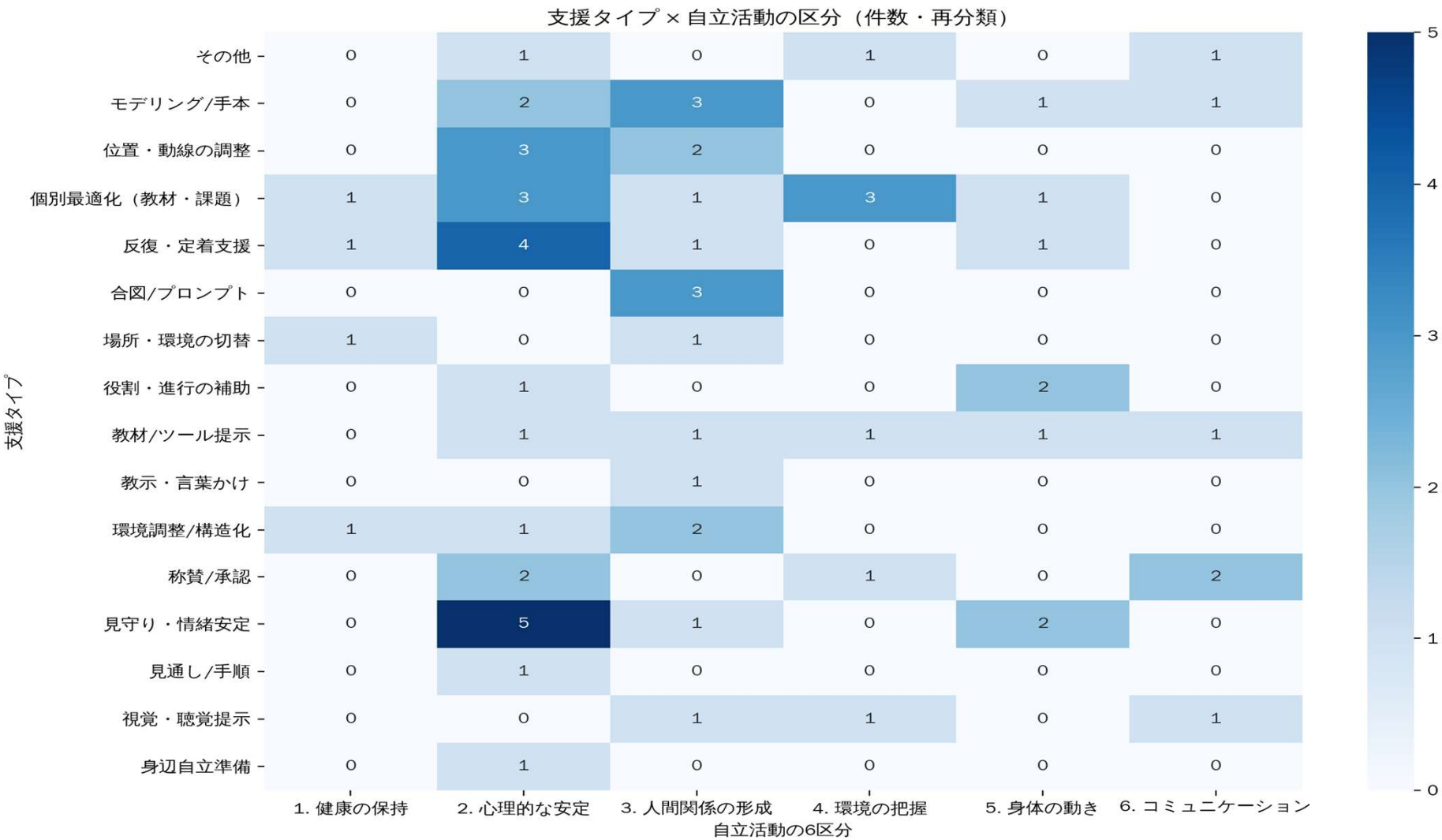


表2・支援のタイプと自立活動の区分



まとめ

主体性の評価の難しさ

→主体性を共通の言葉で捉える。

共通の見取り語彙が増えることで、
より**多面的・多角的**な児童・生徒の姿を
捉えることが可能に。

なぜこの支援なのか？の根拠

→自立活動の視点を取り入れる。

「なぜこの支援か？」を考えたことで、
自立活動が「各教科・合わせた指導」を
支える**土台・基盤**であることが明確に。

個々の実態に合わせた支援

児童・生徒の主体性の向上